

進捗状況の概要（1ページ以内）

(1) 事業実施のための体制整備

徳島大学内に、「地方創生人材育成執行本部（執行本部）」と、「地方創生人材育成推進機構」を設置し、事業の円滑な執行について万全を期している。

本事業の「協議の場」となる「コンソーシアムとくしま」に「創生人材教育開発委員会」を設置し、委員会の下に、具体的な活動内容を検討する部門別 WG を置くとともに、これらの WG を統括する「創生人材教育開発委員会 WG」を設置し、迅速な事業運営を図っている。

また、組織的なプログラム運営を行うために設置した COC+R 事業事務局に、4名の地方創生コーディネーターと2名の事務職員を配置し、事業推進に万全を期している。

(2) 教育プログラムの整備・改善

令和4年度には、従前の経営課題型の「実践型インターンシップ」に地域課題の解決に向けたプロジェクトを実施する「地域課題型」を新たに設けるとともに、経団連の産学協議会基準に準拠した「就業体験型インターンシップ」の新設や、徳島県出身の県外大学学生等を対象とした「UIJインターンシップ（徳島県委託事業）」の導入、地域で豊かな人生を送るための知恵を学ぶ「ライフデザイン」等の科目を新設するなど、教育プログラムの改善・充実を図った。

令和5年度には、四国大学（参加校）において、女性活躍推進、ジェンダーギャップの解消等に焦点をおいた科目「ダイバーシティ・キャリアデザイン」を新設するとともに、四国大学の「地域未来探求」等7科目を新たに追加し、プログラムの拡充を図っている。

また、参加校からのプログラム科目の提供を進め、参加校の学生が無理なく本事業の教育プログラムが履修できるよう、参加校におけるプログラム科目の充実を図っている。

これらの改善により、プログラム科目は事業計画時の36科目から62科目と2倍に増加して科目選択の幅が広がり、プログラム履修学生の増加に繋がっている。

(3) 地域クリエイター・マイレージポイントシステムの整備・運用

地域定着意識を醸成し、教育カリキュラムの継続学習を促進するため、「地域クリエイター・マイレージポイントシステム」を導入しており、令和5年3月には獲得ポイントによる徳島県知事、コンソーシアムとくしま会長からの表彰状授与式を挙行し、計16名の履修生を表彰した。

(4) 遠隔参加型授業システムの構築

コロナ禍における遠隔授業対応とともに、県外学生・社会人・高校生等の非正規履修生の受講に対応するため、対面および遠隔参加のハイブリッド型のICT授業システムを、創成学習スタジオ（理工学部共通講義棟6階）とフューチャーセンター（地域創生・国際交流会館5階）に構築し、実践型インターンシップ等のプログラム授業に活用している。

(5) キャリアサポートシステムの構築

徳島大学とNTT西日本徳島支店による「ICT利活用による地域活性化連携協定」を締結し、地域への若者定着のための学生への進路指導サポートや人材の地域定着と育成に向けた企業サポートを目指し、企業側の経費負担により、企業の経営風土のデータベースの構築を基盤としたキャリアサポートシステムを開発している。

(6) 広報活動

ホームページやSNSを活用した方法、FD地域人材育成フェスタ開催時等における広報に加え、事業実施内容の周知のために開催を計画していた成果公表フォーラム（令和4年度事業）の開催方法を見直し、より多くの階層への情報提供が可能となるWeb版の成果公開フォーラムを開設することとし、新入生、高校生・県外生、保護者、参加企業の4つの階層を対象としたWeb版の「コンソーシアムとくしま Open フォーラム」を開設し、令和5年3月から公開している。

(7) 参加校における取組

ダイバーシティ・キャリアデザイン科目の開発・導入（四国大学）、専門外資格取得サポート（徳島文理大学）、インターンシップ参加に向けた講演会、企業研究会の開催（徳島工業短期大学）、地元企業インターンシップ先の開拓（阿南工業高等専門学校）等、各校の特性に応じた取組を実施している。